

## 守り育てる家づくり



### 結露との付き合い方

水の被害として思い浮かぶのは、屋根や外壁からの雨漏り、風回や洗面所など水回りからの漏水、そして結露でしょう。窓の結露は、外気で冷やされたガラスに温かい室内の空気が触れて冷やされると、含まれていた水蒸気が水に戻る現象です。家や住民の「健康」に影響する可能性もあります。

#### 「表面結露」

外気と室内の気温差が大きいと、窓ガラスに限らず、結露は発生します。窓ガラスなど主に目に見えるところに発生する結露は「表面結露」、壁の内側

などにはできるものは「内部結露」と呼ばれます。

表面結露は、冬の朝などにサッシの内側に発生する露です。

この対策で効果的なのは、窓の内側にもう一枚窓を設けたり、今あるサッシのガラスを二重の複層ガラスに交換するリフォーム工事です。ガラス交換だけなら、普通の大きさの一軒家でも半日で工事は完了します。

この工事のポイントには、可能な限り全部の窓に対策を講ずることです。

表面が樹脂で覆われた窓枠に交換すれば、サッシの枠への結露も防げます。

断熱効果が高まるので、冬の光熱費が節約できます。遮音効果も高まるので、とても暮らしやすくなります。

#### 危険な「内部結露」

結露は、壁の中など壁構造の内部でも発生する可能性があります。これが曲者です。柱や壁を腐らせてしまうからです。

見えないところに発生する結露ですから、直接的な対策は難しいです。例えば、①換気を定期的に行って湿度を上げすぎない②結露しにくい断熱材に交換する③外張り断熱へのリフォーム——などとなり、お金がかかる対策もあります。

内部結露も外部結露も、放置するとカビが発生しやすくなります。家も傷むし、健康被害も出かねません。まずは、専門家に診断してもらい、対

策を検討することをお勧めします。

昔の家はすきま風が当たり前で、建材も自然素材ばかりでしたから、結露はほとんど発生しませんでした。

最新の家は24時間換気システムが備えられていたり、断熱材も改良されています。問題は、築20年〜30年程度の家です。特に24時間換気システムがない家の場合は要チェックと思います。

#### 意外なメリット

内窓を新設すると、防犯効果も高まるでしょう。防犯ガラスを使った商品もあります。泥棒が、二枚もガラスを割る手間を嫌い、悪さをする確率が下がるともいわれています。

内面に特殊な金属膜を設けた複層ガラスもあり、冬の断熱だけでなく夏の強烈な日差しを60%弱カットします。省エネ効果が高いので、エアコンの電気代や冬の灯油代が節約できます。

ただ、マンションで内窓を設けるリフォームを実施する場合は、管理規約等をご確認ください。賃貸物件の場合は、大家さんとの調整が不可欠です。

石油ファンヒーターなど、使用中に大量の水蒸気を発生させる暖房を見直すといった工夫も検討してください。

室内がカビ臭いのにかびが見当たらないとか、床がフカフカしているといった場合は、内部結露で見えないところに被害が出ている可能性があります。住宅メーカーなどに相談してください。

## 読売不動産

本社 東京都千代田区大手町 1-7-1 読売新聞ビル内 TEL (03) 3217-8309 FAX (03) 5280-1833  
大阪支社 大阪府大阪市北区野崎町 5-9 読売大阪ビル内 TEL (06) 6363-8055 FAX (06) 6316-1400